学校番号	1301

令和８年度　福祉科

教科	福祉	科目	他者とつながる	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・グループワークを通して、コミュニケーションに関する基礎的な知識と他者とつながるための技術を習得します。
・コミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得し、それらを活用する能力と態度を身につけます。
・同学年の生徒や、地域社会で暮らす高齢者や障がいのある人、認知症の人、その家族などとのコミュニケーション方法を考え、それらを活用できるように取り組みましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・コミュニケーションに関する基本的な知識と技術を修得する。
・高齢者や障がい者に対して介護に関する基礎的・基本的なコミュニケーションの知識を身につけ、コミュニケーションの意義や役割を理解する。
【思考力、判断力、表現力等】
・レクリエーション・グループワークを通して、コミュニケーション能力を高めつつ、他者とつながろうとする。
・サービス利用者・家族と適切な人間関係を形成するためのコミュニケーションの基礎について思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。
【学びに向かう力、人間性等】
・自己のコミュニケーションの在り方について関心をもち、よりよいコミュニケーション能力の向上をめざして意欲的に取り組む。
・介助者として高齢者や障がい者に対して、より良いコミュニケーションとは何かを考え、実践しようとしている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・同じ学年の生徒や高齢者や障がい者に対して介護に関する基礎的・基本的なコミュニケーションの知識を身につけ、コミュニケーションの意義や役割を理解している。 ・他者に対する基礎的・基本的なコミュニケーションの技能を身につけている。	・自己のコミュニケーションの特徴について理解したことを他者に伝えることができる。 ・サービス利用者・家族と適切な人間関係を形成するためのコミュニケーションの基礎について思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	・自己のコミュニケーションの在り方について関心をもち、よりよいコミュニケーション能力の向上をめざして意欲的に取り組む。 ・介助者として高齢者や障がい者に対して、より良いコミュニケーションとは何かを考え、実践しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
ステージ1	学校内のコミュニケーション	ア　コミュニケーションの意義と役割 ・クラスにおけるコミュニケーション。 ・自己表現としてのコミュニケーションの理解を深める。 ・他者との信頼関係や人間関係の構築に向けて必要とされるコミュニケーションについて学ぶ。 イ　コミュニケーションの基本技術 ・クラス内の事例や演習を通してコミュニケーションの基本技術を理解する。 ・目線、表情、言葉の語調、身だしなみ、適切な距離などに留意し、他者の感情表出の察し方、納得と同意の得方、質問の仕方、意欲の引き出し方などを学ぶ。	a:コミュニケーションに関する基礎的な内容について思考を深め、その基礎的な知識と技術を基に適切に判断し、適切に表現している。 ・言語的・非言語的コミュニケーションなど基礎的な技法を通して意義や役割について思考を深め、適切に表現している。 b:コミュニケーションについて関心をもち、人間関係の形成について理解を深めようとしている。 ・言語的・非言語的コミュニケーションなど基本技術の意義や役割について関心をもとうとしている。 ・コミュニケーションに関する基礎的な技術を身につけるとともに、様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。 c:コミュニケーションに関する基礎的な知識を身につけ、コミュニケーションの意義や役割を理解して行動することができる。 ・言語的・非言語的コミュニケーションなどの基礎的な知識と技法を身につけ、コミュニケーションの基礎について理解して行動することができる。	プリントによる学習への取り組み	・実技後のレポート課題、 ・調べ学習によるレポート課題	実技での態度や取り組み姿勢
ステージ2・3	サービス利用者や家族とのコミュニケーション	ア　福祉専門職におけるコミュニケーション ・感覚機能、運動機能及び認知・知覚機能の低下している人などのコミュニケーション技法について、障がいの特性に応じたコミュニケーションの基本技術とその必要性について学ぶ。 イ　サービス利用者や家族と	a:サービス利用者や家族と課題の解決をめざし、その技術や知識を適切に判断し、その過程や結果について理解している。 b:サービス利用者や家族に関するコミュニケーションの様々な課題に関心をもち、コミュニケーション方法の工夫について探究しようとしている。 ・サービス利用者や家族との課	プリントによる学習への取り組み	・実技後のレポート課題、 ・調べ学習によるレポート課題	実技での態度や取り組み姿勢

		の関係づくり ・サービス利用者・家族との関係づくりや家族への支援について、信頼関係の形成過程やサービス利用者と家族との調整や相談、助言・指導などについて、サービス利用者や家族との面接などの具体的な場面や事例・演習を通して適切なコミュニケーション方法を学ぶ。	題に対応する基礎的・基本的な技法に関する資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。 c:サービス利用者・家族とのコミュニケーションに関する基礎的・基本的知識と技術を身につけ、コミュニケーション方法を理解して行動することができる。			

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度